

合成皮革のポリウレタン樹脂の劣化による剥離

ポリウレタン樹脂などを織編物にコーティングした合成皮革は天然皮革に比べて安価・軽い・柔軟性に富むなどの特性がある反面、経時劣化が避けられない素材です。今回は、合成皮革製品の典型的な事故事例である剥離について紹介します。

監修／クリーニング総合研究所

素材特性に注意

衣類の状態

ブルゾンの衿裏側に使用している合成皮革のポリウレタン樹脂が剥離した状態になっている。

クリーニング店・利用者ともに合成皮革が使用されている認識はなく、着用時に剥離を発見して合成皮革を使用している製品であることが分かったもの。

原因

コーティングしているポリウレタン樹脂が、長期の使用の間

に空気中の水分などによる作用を受けることやクリーニングの処理を繰り返したことで劣化し、剥離したもの。

事故の防止対策

合成皮革などに使用されるポリウレタン樹脂の経時的な劣化は避けることができないため、抜本的な防止策はない。

ポリウレタン樹脂は空気中の水分による加水分解などにより、通常2〜3年で劣化することが明らかになっており、クリーニ

合成皮革製品全般に 対しての注意事項

合成皮革は、繊維や編物の基布にポリウレタン樹脂などをコーティング(塗布)したもので、合成皮革の多くは基布とスポンジ層と皮膜の3層構造になっている。剥離は、スポンジ層と皮膜の両方の部位に生じる。

合成皮革製品全般に対して、次のような配慮が求められる。

・取扱表示などを参考に、洗える製品かどうかを確認する
(水洗い、ドライクリーニングのいずれも不可を表示している製品がある)

・汚れが付着しやすく、かつ着用摩擦を受けやすい生地を折返し部分、袖口、裾回り、衿回り、脇下などに異常がないかを確認する
(汚れが合成皮革の劣化を促進し、着用摩擦で剥離、脱落等が生じていることがある)

・べたつきやひび割れなどの兆候があるものは剥離等の生じる可能性が高いためクリーニングできないことを伝え、お断りすることが望ましい

・製品を製造してから2年以上経過している場合には、購入の時期に関係なく樹脂の劣化が進行しており、クリーニング処理で剥離等が生じる可能性のあることを伝える



衿裏部分に合成皮革を使用したブルゾン



合成皮革のポリウレタン樹脂が劣化し、剥離している

■品名…ブルゾン
■組成表示…表地 ウール50%、
アクリル50%
裏地 ポリエステル100%
中わた ポリエステル100%
リブ アクリル100%
■取扱表示…

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。
全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」